

開催地名：東京都日野市	
開催日時	令和元年8月10日（土） 13：00 ～ 14：15
開催場所	実践女子大学（日野キャンパス）
語り部	山田 修生（宮城県仙台市）
参加者	自治会・自主防災会・避難所運営委員会・学生など約160名
開催経緯	第5回目を迎える「日野市民でつくる防災・減災シンポジウム」の基調講演で、避難所運営や自助・共助についての話や、災害時要配慮者の把握と避難行動についての話しを語り部をお願いしたいと考え、開催の運びとなった。
内容	<p>（1）被災者支援について</p> <p>皆さんは自治会や自主防災組織、避難所運営委員会のメンバーとして、災害の場合において被災者支援が課題になってくると思う。この時に検討していただきたいのが自宅避難者への対応である。災害時にはほとんど避難所に直行するが、色々な条件、理由によって自宅ですっと我慢している人もいるのが実状である。自宅避難者の皆さんについては、意外と行政のほうでも手が届かないケースが多い。自宅避難者の方々への配慮・対応をお願いしたいと思う。</p> <p>また、常日頃、自主防災会組織の皆さんとしては、「災害の場合はこういう対応しましょう」といった、周りの人たちとの連絡会議を頻繁に行った方が良くと思う。期待できることの一つは、自助体制の強化である。災害が発生した場合は自助が基本である。共助・公助は100パーセント期待できない。そのため唯一頼りなるのが自助ということになる。自主防災組織の皆さんや、近隣の学校とも連携し、自助体制をどう強化していくかということ連絡協議会の議題として取り上げ、議論していくことが肝要かと思う。</p> <p>（2）東日本大震災を踏まえて</p> <p>できれば大きい懐中電灯、携帯電話、携帯ラジオ、この三つだけ持って移動していただきたい。避難所に行けばこの三つだけあれば十分である。もう一つは皆さんのご自宅に、これも間取りの関係で可能であるならば、家族の皆さんが地震のときに逃げ込む部屋を一つ可能であれば確保しておいてほしい。その部屋には家財道具等を一切置かないということが肝心である。もし地震が発生した場合、家族全員がその部屋に逃げ込むことができる。何も物を置いていないので、怪我をする心配もない。</p> <p>東日本大震災の場合は発災が14時46分であった。その時間帯は仕事をしている人は職場に、学生は学校にいる。従って、自宅に男性がいるケースは少なく、女性とご高齢の方が中心である。そこで、防災訓練・避難訓練の場合は女性</p>

中心の避難訓練をできる限り計画し、実施することをお薦めする。また、避難所で困ったことは、寒さや空腹の問題（毛布や暖房設備、食料の備蓄）とあわせて、トイレの問題があげられる。単純に数が少ないということの他に、高齢者、体の不自由な方のトイレの問題がある。高齢者や体の不自由な方専用のトイレを設置することを是非ご検討していただきたいと思う。

（3）震災から学んだこと

ライフラインがストップしてしまうので、是非循環備蓄をお薦めしたいと思う。平時に食べる食料を余分に自宅に備蓄しておいて、消費期限を見ながら順繰りにそれを食べてくということ、これが循環備蓄の考えである。乾パン等の災害用の食糧に限らず、水や米、インスタント食品、チョコレート等、何でもあてはまると思う。

身に付けた知識、経験の全ては決して裏切らない。1回経験したこと、あるいは、1回自分で行ったことは必ず役に立つ。防災訓練や避難訓練が役に立たないと思わずに、いざとなったら必ず役に立つと考えて積極的に家族全員で参加していただきたいと思う。



開催地より

災害の被害経験が少ない人達に対して、防災の意識を持ってもらうことは難しいが、東日本大震災の被災経験を踏まえた本日のお話は、非常に興味深く聞くことができ、聴講者の方々も非常に熱心に聞かれていた。十分意義のある研修会となった。